

人生を豊かにする論語の教え

令和四年九月二十一日（水）

講師 陣一 永機 氏



子曰、學而時習之、不亦說乎。有朋自遠方來、不亦樂乎。
人不知而不愠、不亦君子乎。（01-01）

子曰く、學びて時に之を習う、亦た説ばしからずや。朋有り、遠方より來たる、亦た樂しからずや。人知らずして愠おらず、亦た君子ならずや。

子曰、不患人之不知、患不知人也。（01-16）

子曰く、人の己を知らざるを患えず、人を知らざるを患う。

子曰、視其所以、觀其所由、察其所安、人焉廋哉、人焉廋哉。（02-10）

子曰く、其の以うる所を視、其の由る所を觀、其の安んずる所を察すれば、人焉んぞ廋さんや、人焉んぞ廋さんや。

子曰、參乎、吾道一以貫之。曾子曰、唯。子出。門人問曰、何謂也。
曾子曰、夫子之道、忠恕而已矣。 (04-15)

子曰く、参や、吾が道は一以て之を貫く。曾子曰く、唯と。子出
づ。門人、問いて曰く、何の謂ぞや。曾子曰く、夫子の道は、忠
恕のみ。

子曰、老者安之、朋友信之、少者懷之。 (05-26)

子曰く、老者は之を安んぜしめ、朋友は之を信ぜしめ、少者は
之を懐かしめん。

子曰、歲寒、然後知松柏之後彫也。 (09-28)

子曰く、歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る。

子曰、君子成人之美、不成人之惡。小人反是。 (12-16)

子曰く、君子は人の美を成し、人の惡を成さず。小人は是に反す。